

社会福祉
法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

第61号 2015年(平成27年)3月31日
発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
ボランティアセンターだより編集委員会
〒560-0023 豊中市岡上の町 2-1-15
TEL (6848) 1000 FAX (6848) 1005
URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc>
E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp

高齢者支援ボランティアグループ

ボランティアグループ
あれこれ

「ステッキ」編



体験学習では、ボランティアが先生役です



重い装具を身につけて、高齢者の立場に思いをはせます

6月が来ると「ステッキ」の活動は24年目に入ります。グループ創始者のおひとりが『高齢者や高齢者を介護する家族の杖(ステッキ)になりたい』との思いを込めて名付けられたグループです。介護保険がまだないときから今日まで支援の場、方法は形を変えても思いは変わることなく続いてきました。介護者(家族)の会の支援、校区ミニデイのお手伝い、個別支援、施設支援。高齢者とふれあいで、ふっと浮かぶ笑顔に力をいただき、活動の場を広げ、続けてこれたと思います。

次の世代、小中学校の生徒に「インスタントシニア体験講座」で老いも若きもみんなが生き活きと楽しく暮らしていく大切さを知ってほしいとがんばっています。やさしい心が育んでくれるようお願いながら。

メンバー自身、高齢化しつつありますが、より高齢者の心に寄り添えるようになったかなと思っています。が、身体的にはしんどいなと思う場面も多々出てきているのも現実です。でも、まだまだできることはいっぱいあると頑張っています。思いを一つに一緒に活動して下さる方、大歓迎です。若い力、大歓迎です。

◎活動に興味のある方は・・・ご見学、お問合わせください。

☆定例会

日時：第3水曜日 13時30分～

☆ステッキカフェ(ステッキメンバーによるカフェ)

日時：第1月曜日 13時30分～15時30分

場所：ボランティアセンター「ぷらっと」

☆お問合わせ

豊中市社会福祉協議会 ボランティアセンター「ぷらっと」

豊中市岡上の町2-1-15(豊中市すこやかプラザ2階)

☎ 06-6848-1000



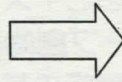
災害支援訓練

～災害ボランティアセンター開設シミュレーション訓練～

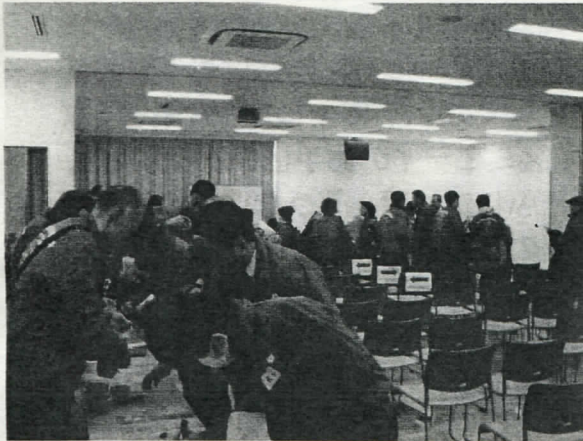
阪神・淡路大震災が起きた1月17日の週の土曜日に毎年実施している災害支援訓練。大震災から2年後の平成9年から継続している訓練も今年で18回目。阪神・淡路大震災でボランティアセンターを立ち上げて、災害支援を経験した教訓を活かして、風化させないという思いのもと、市社協災害支援ネットワークと連携して訓練を行っています。

災害支援訓練は、震度6強の地震が豊中市全域で発生したことを想定して、災害支援ボランティアセンター開設後のシミュレーションを行うものです。当日115名が参加して、緊迫した訓練が実施されました。

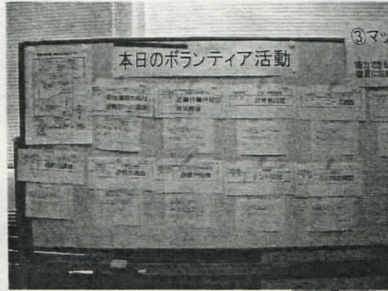
ボランティアの受付



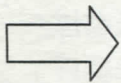
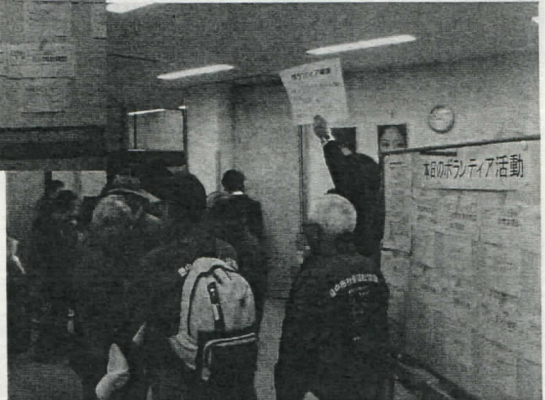
マッチング・オリエンテーション



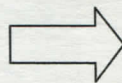
ボランティア保険の加入確認。名前、移動方法、資格の有無などを胸に張り、活動の準備をします。



ボランティアセンターに入ってきたニーズに対応できるボランティアの調整を行います。



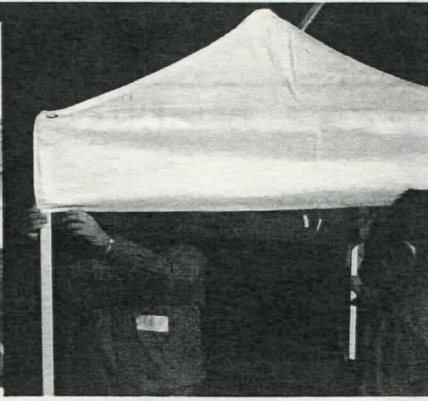
ボランティア活動



本部へ報告



リーダーを決めて、いざボランティア活動。右の写真は防災倉庫にあったテントの設営のようす。訓練時に使用可能かチェックしています。左の写真はボランティアのニーズを聞き取る訓練のようす。

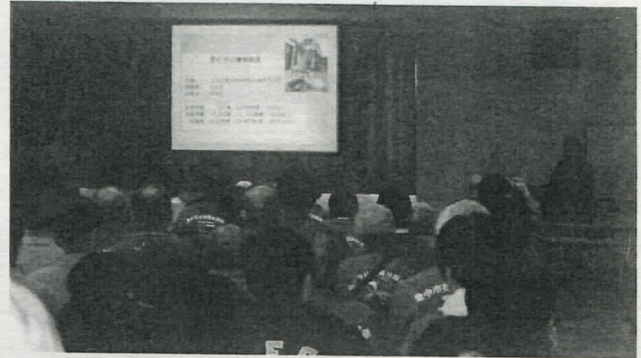


最後に本部へ報告して、いざという時に活かせるように気づいた点などを参加者全員で共有しました。

リレートーク「阪神・淡路大震災から20年 ～あの瞬間を忘れない～」

災害支援訓練ののちに、20年前にどのようなことが起こっていたのかを振り返り、当時の記憶と経験を風化させないよう教訓として引継いでいくために、ボランティアとして支援されてきた方々をお招きしリレートーク形式で当時のことを話していただきました。

まずは、当時ボランティアセンターの担当をしていた市社協勝部次長よりボランティアセンター立ち上げ、避難所へのボランティア派遣、引っ越しの支援、支援物資仕分け作業、支援物資の無料バザーを開催したことなど報告しました。被災者は避難所、仮設住宅、復興住宅と何度もコミュニティが変わっていく中で住民が孤立しない支援の重要性を共有しました。



次に市社協登録ボランティアグループ「小さな手」の山口さん、ガールスカウト豊中市地区協議会の村上さん、市社協登録ボランティアグループ「つぼみ」元メンバーの湯川さん、高川校区福祉委員会の中尾さん、庄内南校区社会福祉協議会の増山さんにお話しいただきました。

ひとりでは何もできないけど、みんなで作ったら楽しいねと言いながらズボンを作った。自分ができることは針と糸のつながりしかできないが、少しでも役に立ったのがとても嬉しかった。

(山口さん)

市社協のボランティアセンターで需給調整をした。実際に困っていることをしたいという気持ちの温度差を感じ、調整が難しかった記憶がある。若い人の世代に語り継いでいかないと感じている。

(湯川さん)

町並みは変わったが、いまだに古い建物が残っていたり、そういうところに限って自治会がなかったりして、名簿登録もすまないけど、一歩一歩しないといけないことをすすめていきたい。

(増山さん)

復興住宅ができた後、慣れないパソコンで買い物、病院、バス停が載っている地図を作り配布した。それを活かして校区の中で自主防災会を立ち上げた。この経験を次に活かしていきたいというのが今の願いです。

(村上さん)

高川校区では、住民一人ひとりが避難経路を覚えてもらうため、避難誘導防災訓練をすることになった。被災しながらも、自分たちで助け合い、生きていくことの大切さを一生懸命説いてがんばっていききたいと思う。

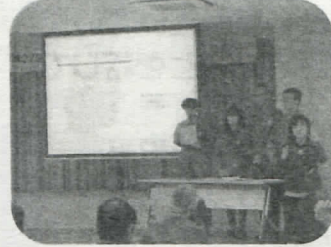
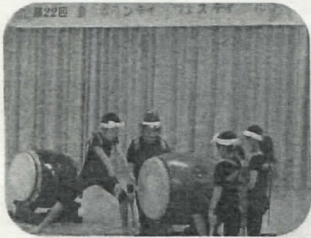
(中尾さん)

それぞれの立場で、避難所へのボランティア活動、ボランティアセンターでの需給調整の支援、地元の避難所の運営など20年前の貴重な経験を語っていただきました。今、災害が起きたとき自分たちに何ができるか改めて考える機会となりました。

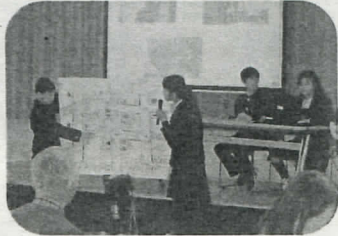
第22回 豊中ボランティア

市民の方へのボランティアの啓発とともに、ボランティアグループ間の交流の場として、ボランティアグループ44団体で組織する市社協ボランティア団体連絡会と豊中市社協の共催で実施する恒例のイベント、今回も450名の参加者で豊中市すこやかプラザはにぎわいました。

ステージ風景



小中学生、高校生から大人までそれぞれの活動発表が繰り広げられました



ステージ午後の部では・・・

講演「介護保険制度の行方」

～これからの地域支援のあり方について～

さわやか福祉財団会長・弁護士 堀田 力 氏



ステージ発表には要約筆記・手話でサポート
出陣者の妻

平成27年4月の介護保険法改正を控えて、これから期待される地域ボランティアの姿などについて、ユーモアを交えながら軽妙にお話しいただき、多くの方の共感を呼びました。

講演会を聞いて

自分の子ども時代のことを思い出しました。親たちも近所の人たちとの関わりを持って、いろいろな会合に参加していました。老人会、婦人会、町内会、子ども会等。今はプライバシーを守るとかで、いろいろな会合に参加しない人が多いです。

高齢化時代に入り、親の時代の時のような「世話好き、おせっかい」が「地域助け合いボランティア」と名称が変わって復活してきたように思われます。

ひきこもり等もみんなが思いやりの心で会話ができたら少しはなくなるかな？と。

現代社会はあまりにも複雑で忙しすぎて気持ちにゆとりが持てないのでは？

無償のボランティアにはなかなか理解が得られず、自己満足のように言われます。自分は頼りにされている、必要な人間なのだと感じる喜びを、これからボランティアに参加しようとする人たちにどう伝えたらよいのか難しいです。(小さな手 T・M)



フェスティバル

H27. 3. 7 (土)

体験フロアでは

点字・手話・インスタントシニア・車イス・アイマスク・ホームページ作成・折り紙・ユ-あい号試乗体験に加えて、今回からノルディックウォーク体験が加わり、子どもから大人まで200人以上の参加者でにぎわいました。



高校生ボランティアによる東北物産展



ボランティアグループそれぞれが趣向を凝らした独自ののぼりを展示



毎回人気の福祉の店なかま出張店

ボラフェスカフェ



徘徊SOSメールコーナーでは多くの方が受信登録しました



軽食販売コーナー

一休さんの自然工作教室

Vフェス当日、2階では企業・団体ボランティアネットワークとよなか(Vネットとよなか)が主催する「一休さんの自然工作教室」が開かれました。

こちら、子どもから大人までの参加者で大賑わいで、たくさんの種類の素材から好きなものを選んで、世界にひとつだけの自分だけのオリジナル作品に仕上げていました。



高槻市ボランティア連絡協議会との交流会

平成26年6月、摂津市ボランティア連絡会と共に高槻市ボランティア連絡協議会（高槻V協）主催の交流会に招かれ、そのお礼を兼ねて、同年11月22日に豊中市に高槻V協を招待し、交流会を開催した。高槻V協からは、事務局を含め6名の方が参加。豊中市V連からは12のボランティアグループから23名と事務局3名、計26名が参加した。

交流会は、食事を挟んで自己紹介や懇親会で場を和ませた後、グループに分かれて現状の課題や問題点などについて話し合った。高槻V協からは、加入グループが少ないことと後継者が育たないこと等、豊中V連からは、メンバーを増やしたい、勉強会で意識付けを強めたい等の課題が示されたが、交流会としては、終始和やかな雰囲気が進み、最後にグループごとに話し合った内容を報告後、コーヒータイムでさらに懇親を深めることができた。

参加いただいたグループのみなさん、ご協力ありがとうございました。
(みちるべ M. H)



とよなか地域ささえ愛ポイント事業



お知らせ!!

☆研修会、交流会への参加はポイントの対象活動です。

☆平成27年度からは活動支援金の申請が100ポイント単位でできるようになります。

☆活動登録には説明会への参加と登録が必要です。

65歳以上の活動登録者を対象にした研修会が、1月15日（木）にすこやかプラザで行われました。

大阪レクリエーション協会の郡 眞由美さんを講師に招き「高齢者にとってのレクリエーションの意義と実践」について講義をいただきました。当日はコミュニケーションのきっかけ、コツだけでなく、介護予防に役立つ体操、ゲームなど実践を交えたいろいろなお話を伺うことができ、会場は笑い声が多くきかれました。

また、2月24日（火）には活動登録者と活動先である介護保険施設の双方の意見を聞くことのできる研修交流会を開催しました。発表者の「デイサービスみらい」ではレクリエーション補助や将棋のお相手などのささえ愛活動の様子を聞くことができました。また、市内に4ヶ所ある「愛和会」ではボランティア受け入れに際し、ボランティア同士の交流会を行ったり、直接言いにくい相談はコーディネーターが間に入るなど、施設独自の受け入れの工夫をきくことができました。

シンポジストの大阪教育大学の新崎先生のミニ講演会、活動者、受け入れ施設のお話を興味深く聞くことができ、とても有意義な研修交流会になりました。



活動登録者向けの研修会や交流会には毎回多くの参加があります。

ボランティア訪問記



パナソニック交野(株)を見学して
～障害者の特性や能力を活かした職場～

会社見学にあたって、初めは暗いイメージを持って参加した。しかし、現実には明るく生き生きとした職場で、社員の顔は活力に満ちていた。

まず、会社の目的が商業主義ではなく、社会に貢献することを目的にしている。例えば、視覚障害者は鋭い聴覚を活用して、自分に自信を持って楽しく働いていること。他の障害者にも、特性や能力を活かすために作業を細分化し、専門化(単純化)していること。

さらに、その仕事の目的は製品が社会に貢献するもの、製品は良質なもの、職場は働くものの共生を育むもの等。

これらは、私たちにとって、未来の社会の在り方を暗示しているようで、明るい気持ちで帰路につけた。
(みちしるべ M・A)

聴くの会勉強会

「心の病とどう向き合うかを考える」

豊中市障害者基幹相談支援センターの杉本博一氏の講義を聞きました。

このセンターは生きづらさを抱えて人間関係がうまくいかず、心の病に悩まされている人が増えている昨今、この方々に地域の中でいかに安心して生活してもらうかを支援する場と理解しました。自己肯定感、自己充実感、喜び、安定感、受容が増えれば心は満たされるので、それにはまず傾聴(受容と共感)することが支援の第一歩とのこと。そして支援者も自分自身の心といつもうまく付き合っていることが大切とおっしゃいます。

これからの聴くの会の活動に活かせることがたくさん有り、有意義な時間をいただきました。
(聴くの会 K・K)



毎月のグループ定例会の様子

ボランティアはじめま専科

HP作成グループ
「アクセス」です



アクセスは、社協ボランティアセンターのボランティア情報案内・募集などの広報の活動を担っています。

2月4日(水)に実施しましたところ、4名(男性 1名 女性3名)が参加されました。パワーポイントで作成した活動内容をスクリーンに映し出し、定例会での作業等の説明・意見交換し、参加の呼びかけに女性3名が即日決意され、18日の定例会に早速活動を始められました。女性のメンバーが増えて、実稼働できる人員は11名(男性 6名 女性 5名)と、バランスのよい人員構成となりました。活発な活動を期待してください。

定例会 第1・3水曜日 10:00~12:00 すこやかプラザ(ぷらっと)

とよなか力!! UPを発信していきます。

手話バッジがリニューアル!

聴覚障害者が市役所の窓口などで手話によるコミュニケーションがとれる人を探しやすくすることと、手話協力者が増えることを願って、平成21年に「とよなか手話協力者バッジ」が初めて作成されました。

今回、当事者、市内の手話グループメンバー、市職員、市社協で構成される“手話バッジ普及プロジェクト”で再検討し、デザインを一新し、よりシンプルでわかりやすい「手話バッジ」作りなりました。

必ずしも手話が上手にできなくても、聴覚障害のある方とコミュニケーションをとろうという気持ちのある方に着用してもらい、手話サポーターが増えることへの願いがこめられています。



プロジェクト委員会の様子



ボランティア活動 総合保障制度のご案内

安心してボランティア活動や地域活動に取り組んでいただくために、ボランティア活動総合保障制度があり、ボランティアセンターが窓口になっています。

◆ボランティア活動保険

(ボランティア活動中の事故に備えていただくもの)

⇒ボランティア活動を行う団体対象

◆ボランティア・市民活動行事保険

(主催者が賠償責任を負った場合に備えていただくもの)

⇒スポーツ活動や子ども会活動など各種ボランティア・市民活動団体対象

※不特定多数の方が参加される行事はこの保険の対象にはなりませんのでご注意ください。

※補償内容は毎年変わります。保険加入の際にはご確認ください。

《詳細はボランティアセンターまで

お問い合わせください》

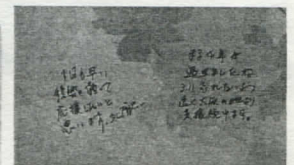
東日本大震災被災地への支援活動のひとつとして、被災地支援金募金の受付を継続しています。今年度も東北物産展の売上利益、個人、各種団体からのご寄付をいただきました。みなさまからお預かりした支援金は中央共同募金会を通じて被災3県の住民を支える活動に役立てられるよう送金させていただきます。ありがとうございました。

《平成26年度受付支援金総額》

⇒ 245,561円 (H27.3.30 現在)



今年も3月11日に支援の集いを実施し、被災地に思いを寄せました。



編集後記



待ちに待った春、ボランティアを始めるにはよい機会ですよ! 地域に取り残されず、地域に芽吹き、飛び出す“春”。

私ごとで恐縮ですが、つい先日106歳の方とごいっしょに「金のびょうぶに うつる灯は かすかにゆする春の風」と歌ってきました。ボランティアも「心をゆする春の風」のようになりたいのですが、修養の足りなさを感じています。それぞれの、様々な、あなたにだけしかできない「春の風」を目指していきたいですね!



(さわやか T.N)